

OC体験授業の実践報告

親子・乳幼児教育授業実践及び「表現」体験授業実践

井 澤 正 憲
渡 辺 直 人

OC 体験授業の実践報告

親子・乳幼児教育授業実践及び「表現」体験授業実践

OC Trial Class Practice Report

Practice of parent-child and infant education classes and

"Expression" hands-on class practice

井澤 正憲 渡辺 直人

Masanori Izawa Naoto Watanabe

要 約

2022 年度に実施した OC での体験授業の実践「親子・乳幼児教育授業実践」及び「『表現』体験授業実践」をここに報告する。親子・乳幼児教育実践に関しては、親子関係・子育て理論・乳幼児発達心理学に焦点を当ててカリキュラムを作成した。授業は二部制とし、第一部「Shin-ai Baby Projects ベーシック編 子ども学(赤ちゃん)」では、赤ちゃんの生体に関して、赤ちゃんの「可愛さ」について、赤ちゃんの能力に関して、という三本立てで講義を行った。第二部「Shin-ai Baby Projects - Part 2 - 「ふれあい」の科学」では、二足歩行と赤ちゃん(人間・動物の赤ちゃん)、Attachment とホルモン、「ふれあい」の科学、の三本立てで講義を行った。

「表現」体験授業実践は 6 部制で行い、それぞれ異なる表現活動に関する授業を行った。①2022 年 6 月 4 日(土)に「おしゃべりスノードーム」、②2022 年 6 月 16 日(木)に「針金の木」、③2022 年 7 月 9 日(土)に「トップガン・カーミオール」、④2022 年 8 月 20 日(土)に「ビー玉万華鏡を作ってごっこ遊びの空間を散策しよう」、⑤2022 年 9 月 10 日(土)に「コラージュ缶バッジ制作体験」、⑥2022 年 10 月 15 日(土)に「粘土あそび、陶芸体験」を行った。

親子・乳幼児教育実践報告

【はじめに】

現在、子どもや家族、親子関係に関する課題が深刻化している。子どもの生活は過去と比較しても大きく変化し、多忙になっている子どもや個人化している子ども・家族が増えている。親子での共食の機会、触れ合う時間、子どもの3つの間(時間、空間、仲間)が減少しているといわれ、家族間は疎遠となり、核家族が増え、両親共働き家庭が一般的となっている。

課題は挙げるに暇がないためここで割愛するが、このように現代では様々な子ども・家族・親子関係にまつわる問題が山積している。これら課題解決は甚大な時間を要するが、そのためにも教育は一層重要となってくるのではないだろうか。子どもは成長し、将来的に家庭を持つ子どもも多いだろう。しかしながら、上述したような様々な問題があり、いつかはアクシ

デントに直面する時がくる。そういった時に、家族・親子関係に関する知識があることによって、様々な問題にもくじけずに応ずることが出来るのではないだろうか。多くの問題を抱えている昨今の我が国において、家庭教育、家族教育の充実が求められているといえよう。

家族に関する教育を主として扱っているのは、学校教育の中でいえば家庭科家族領域程度である。しかしながら、家庭科の家族領域においてはやりづらさも指摘されている(片田江、2010)。また、家族領域は家庭科教育の一領域であり、取り組まれる時間は少ない。また、家庭科学習指導要領や教科書を概観しても充実しているとは言い難いだろう。

家族に関する教育で、家庭科教育以外にはどのような教育があるかといえ、家族生活教育、家族心理教育、デートDV 予防教育がある。ただし、家庭科教育のように学校教育の中

で行われはならず、それぞれ教育の目的も異なる。

家族生活教育は、日本家政学会の有志が関わっている教育であるが、実践数も少なく、わが国において定期的に行われている教育とは言い難い。家族心理教育に関しては、医療目的で提供されている教育であり、学校教育のような価値観とは言い難い。デートDV予防教育は出前講座のような形で、学校教育で行われることもある。これは青少年を対象とした教育プログラムであり、当初は将来的なDVの予防という観点も含まれていたが、現在では恋人間関係性についての知識を得ることを目的とした教育が多い。ただし、パートナーとの関係性を学ぶ内容であることから、家政学的知見は多分に含まれている。

このように、家族に関する教育は充分であるとはいえない。従来担っていた家庭科教育も幅が大きく広がり、家政学、生活科学全般的内容が多い。加えて、家族の形が多様化し、様々なバックグラウンドを持ち、それらを受け入れる世の中になりつつある現代で、決まった形を示すことは難しいことから、家族というコンテンツは教育現場において扱いに困っている現状もある。だが、家族・親子に関して様々な課題が浮き彫りとなっている昨今、日本社会の発展のためにも、家族・親子関係に関する教育は重要であり、今以上に検討を行う必要があると考える。以上、本研究では家族教育の充実を図るべく、家庭科教育の家族領域の検討を行う。また、本稿では親子関係・子育て理論・乳幼児発達心理学に焦点を当てて実践を行い、その報告を以下で行う。

【実践者の立場と講義方法】

2022年4月16日に第一部、2022年6月4日に第二部を実施した。関西地方に所在するA保育士養成校にて講義を実施した。聴講者はOCにて来場した高校生等である。OCでは複数講座がひらかれており、全て自由参加となっている。講義方法は一斉講義を行った。また、1講座30分チームで行った。講義は大講義室にてマイクロソフトオフィスのパワーポイントを用い、マイクを使用しながら行った。また、第二部OC終了時、倫理的配慮を遵守し、協力者のみに任意・無記名でアンケートを取得している。質問内容は「良い・参考になったと思う体験イベント・相談コーナーはありましたか？(複数回答可)」である。

(1)授業の内容

第一部「Shin-ai Baby Projects ベーシック編 子ども学(赤ちゃん)」

1. 自己紹介、2. 赤ちゃんの生体に関して、3. 赤ちゃんの「可愛さ」について、4. 赤ちゃんは優れているか？、5. おわりに

第二部「Shin-ai Baby Projects - Part 2 - 「ふれあい」の科学」

1. 自己紹介、2. 二足歩行の赤ちゃん(人間・動物の赤ちゃん)、3. アタッチメントとホルモン、4. 「ふれあい」の科学、5. おわりに

【経過および結果】

(1)第一部「Shin-ai Baby Projects ベーシック編 子ども学(赤ちゃん)」

1. 自己紹介

まず、はじめて来場された方であるため、私自身の自己紹介を行った。所属と氏名、職階を述べた後、主な研究対象を説明した。そして自己紹介後は、本講座で学ぶ内容の概略を説明した。

2. 赤ちゃんの生体に関して

次に、赤ちゃんの生体に関して説明した。まず人間の赤ちゃんがどのくらいで生まれてくるか、生まれた直後はどのような状態にあるかを説明した。そして哺乳類全体から見た中で、自身の力で移動できるまで約1年かかるのに対し、草食動物は僅か30分で走ることが出来るなどの違いをみせ、生理的早産であることを説明した。のち、次に人類学史の説明を出産の観点から説明した。

3. 赤ちゃんの「可愛さ」について

赤ちゃんがかわいい理由をLorenz(1943)のベビー・スキーマ理論から説明した。ベビー・スキーマの特徴である「身体と頭の割合」、「顔と頭蓋骨の割合」、「目の大きさ・形・位置」、「鼻と口と頬の形状」、「身体的特徴」、「動作の特徴」を説明し、アニメのキャラクターとあわせて説明した。他、かわいさを生存戦略の視点からも考究した。

4. 赤ちゃんは優れているか？

赤ちゃんの産まれながらに備わっている能力を説明した。見分ける能力、聞き分ける能力、学習能力等を発達心理学の観点から説明した。

5. おわりに

最後に、本日のおさらいとまとめを行った。次回の内容の概略を告知し、講義を終えた。

(2)第二部 Shin-ai Baby Projects - Part 2 - 「ふれあい」の科学」

1. 自己紹介

二部であるが、はじめて来場された方も聴講可能としているため、私自身の自己紹介を行った。自己紹介後は、前回と本時の概要を説明した。

2. 二足歩行の赤ちゃん(人間・動物の赤ちゃん)

人間というのは二足歩行という特徴があるが、哺乳類全体から見たら珍しいことを説明した。また、猫がうなじを噛んで子を運ぶ修正があること、うなじをつままれると大人しくなること、人間も同様な現象(PIBI 現象)はあることを説明した。

3. アタッチメントとホルモン

アタッチメント 4 分類(回避型、安定型、葛藤型、無秩序型)と、その測定方法である SSP を説明した。また、これら 4 分類に対応する養育方法の特徴なども説明した。

その他にも、アタッチメント理論に関わるその他の理論、施設病や母性はく奪、オキシトシンホルモン等アタッチメント理論に関連する話も交えて説明した。

4. 「ふれあい」の科学

ふれあいに関する理論として、MM(マインド・マインディネス)を紹介した。MM は子どもに気持ちの面を問うたり、他者の気持ちを代弁したりする働きかけである。これらが子どもの心情の発達等につながっていることを紹介した。

5. おわりに

最後に、本日のおさらいとまとめを行った。また、第一部のおさらいを交えて終わりの挨拶を述べた。

(3)アンケート結果

第二部終了時にアンケートを取得した。「良い・参考になったと思う体験イベント・相談コーナーはありましたか?(複数回答可)」という設問に対して、本講座は 18.5%の割合で肯定的な回答が寄せられた。

【考察および今後の課題】

本実践では、高校生、保護者を対象に親子関係・子育て理論に関する講義を行った。今回は高校生対象のため専門的な知識を交えて説明したが、小学生、中学生ではこの通りにいくとは考えにくい。受講者の年齢、発達段階に合わせて内容の難易度や題材は変えなければならないと考える。

加えて、本講座は一斉講義形式で行った。学校教育のような特定の受講者であればグループ活動や話し合い活動、問題解決学習など様々に工夫を加えて講義を行うことができるだろうが、今回は自由参加の不特定多数であり、見知らぬ他者同士で話し合いやグループ活動を行うといった参加型に工夫することは困難であると考えた。そのため本講座では一斉講義形式で行ったが、講義方法を工夫することによって効果は異なるであろう。

また、発達段階にあわせた教材が必要であろう。学校教育段階に合わせるのであれば、小学生、中学生、高校生の 3 つに分けて開発していくことも必要となってくると考えられる。

他、本稿は乳幼児や親子関係などの分野を取り入れたが、家族教育はそれだけではない。家族といっても分野は幅広く、母子関係、父子関係といった関係論のみならず、生活科学も含まれる。授業を行うその時点で子どもや親のライフサイクルはどの位置にいるか、子ども、親の年齢によっても家族関係は異なる。家族学は多岐に渡っているため、一つひとつを精査していく必要があるだろう。

おわりに、講義方法に関しても、今回以上に能動的な態度をどのように引き出すか、また講義方法による効果の相違を課題として据えておきたい。加えて、今回扱わなかった他の内容も精査・検討し、カリキュラムを作っていきたい。

「表現」体験授業実践報告

【はじめに】

5 領域の一つである領域「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」と示されている。保育者は環境や遊びを通して子どもの「表現」に至る心の動きを大切に育てなくてはならない。

現在と 50 年前の生活環境を考えてみても核家族化や少子化が進み空き地は消え年齢の違う子ども達が遊ぶ声も静かになった。現在ではインターネットが遊び相手でもあり教師でも

ある。実体験することも無く経験したかのように脳が記憶し、そこには質感も匂いも痛みも存在しない。0から6歳までの生活環境はその後の生き方に大きな影響を与える事は間違いない。個々の感性を育てる保育の現場では、さまざまな経験を子どもたちと一緒に指導・援助できる保育者が求められている。その為、保育者には子どもの豊かな感性や表現する力を育てる実践力が求められている。実践力とは、自らの感性を研ぎ澄ませ、子どもたちの表現の自由を守る事でもある。

緑多き環境に位置する本学では、この環境を活かした表現や造形活動を授業に取り入れた研究を行っている。それらの活動が保育士を目指す学生達のイメージーションの入り口となることを願い、日々創意工夫に勤しんでいる。

本稿は、和歌山信愛女子短期大学保育科で行った2022年度のオープンキャンパスでの模擬授業の記録と、同会場に展示した学生作品の展示についての報告を行う。

学生作品の展示は、井澤が担当する「図画工作」「保育内容演習(表現)」「保育内容演習(造形)」「子どもの表現」「こどもの表現あそび」「造形表現」で学生たちと制作して生まれた「モノ」を展示した。入学時のアンケートでは約8割の学生は、高校時代に美術を選択していない。また、美術館に自ら足を運んだ経験がある者は1割もない。

このさらに文化不毛の地となりつつあるこの地域で、未来を、感性を育てる現場に表現の可能性をどのように伝えるか。その入り口に立つてもらうための素材との格闘の結果を展示した。

【模擬授業と展示について】

オープンキャンパス参加者は主に高校生であり、保育士という仕事に興味を持って来ている学生がほとんどである。その為、ある程度内容を想定して参加しているため模擬授業に参加している。

井澤の模擬授業のテーマは「作る」「あそぶ」で、約30分の制作を通してものづくりの楽しさを再認識してもらおうのが目的である。また、会場に展示した授業で制作した学生の作品は、オープンキャンパス参加者へイメージを明確にし、アイデアをより広げてもらえるように空間を演出している。

2022年度は高校生対象の企画は、学内で6本行った。以下その報告とする。

①2022年6月4日(土)

模擬授業体験「おしゃべりスノードーム」

ペットボトルなど廃材(リサイクル品)を利用して保育教材を作る。廃材を工夫して楽器を作ったり空間をインスタレーションしたり、異素材との組み合わせで表現の幅が膨らむ。その一環として行った。

【準備物】

ペットボトル(100円ショップの容器)、洗濯のり、カラーホイル(銀紙・カラーセロファンなど)、プラ板、油性ペン、アルミホイル、瞬間接着剤、オーブントースター

【制作工程】

1. 容器内の空間を舞台に見立て、プラ板でメインとなるアイテムを作る。(オーブンで焼くプラ板アクセサリ)
2. アクセサリを容器の底に瞬間接着剤で固定した後、内部空間を演出する為カラーホイル等をハサミで裁断して内部に入れる。
3. 洗濯のりと水を1:1の割合で容器に注入する。



図1 スノードーム

学生作品展示「色の濃淡」

150mx150cmの用紙を使って描画の共同作業(4名1組)を行った作品をそれぞれ2種類展示。

1. 墨の濃淡表現(テーマ:季節を表示する)
2. カラーインクのにじみ表現(テーマ:音楽)



図2 色の濃淡

②2022年6月16日(木)

模擬授業体験「針金の木」

参加校:海南高校大成校舎、下津女子高

美術室の窓の外に生い茂る樹木を観察してもらい、針金でその樹木を造形してもらおうワークショップ。自然界の比率を学ぶひとつとして針金を材料にして木を制作する。

【準備物】

針金(アルミ線)、定規、ニッパー

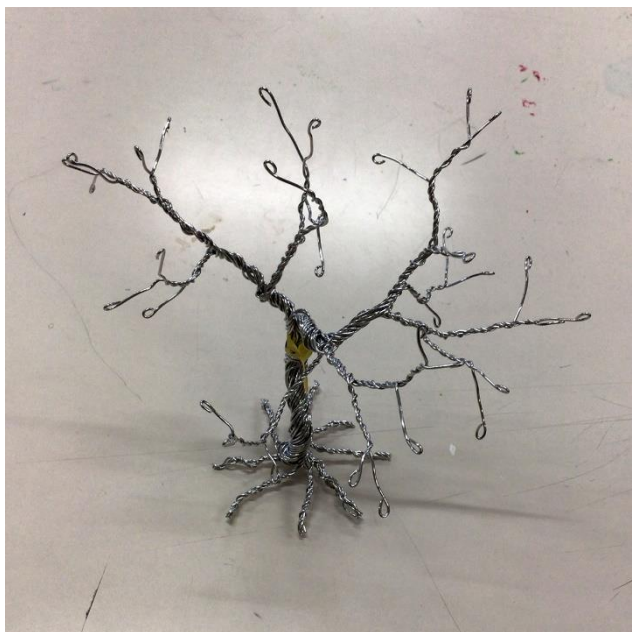


図3 針金の木

【制作工程】

長さ30cmに針金を切り揃える。

フィボナッチ数列 1:1:2:3:5:8:13:21:34...21 本用意し、幹を作り枝に分けて立体になるように造形する。

③2022年7月9日(土)

模擬授業体験「トップガン・カーミオール」

カタパルトで射出する紙飛行機の制作。的となるフラフープの輪をくぐらせてミッションを成功させる。

折り紙は様々な場面で登場する。この模擬授業は競技用の図面で最も簡単な紙飛行を正確に折り、ゴムの動力で飛行距離とコントロールを競って遊べる。

【準備物】

図面、A5用紙(90kg)、鉄筆(千枚通し)、定規、厚紙、糊付きパネル、輪ゴム、テープ、的(フラフープ)

【制作工程】

- 1.飛行できる現場とデモ飛行の披露。
- 2.図面を見て紙飛行機を折る。鉄筆は正確に折り目を入れるために使用する。
- 3.厚紙と糊付きパネル、輪ゴムを使ってカタパルトの制作。
- 4.飛行体験を行う。

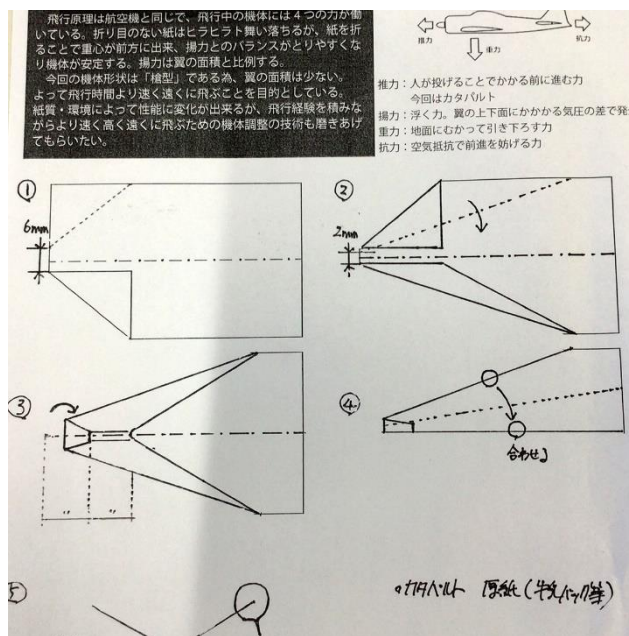


図4 紙飛行機の図面

学生作品展示「要素：点」

造形の要素の出発である「点と線」は、自然観察を通して制作を始める図画工作の入り口である。

床に画用紙を配置し、机の上から指に付けた水または数個の小石を落とす。雨や雪が降って地面に痕跡を残す様に。その痕跡に鉛筆で印を付け、画面構成を行った。

④2022年8月20日(土)

模擬授業体験「ビー玉万華鏡を作ってごっこ遊びの空間を散策しよう」

【準備物】

ビー玉、ミラーパネル、カッター、カッティングマット、定規、テープ

【作業手順】

1. 図面に合わせてミラーパネルを3枚カット。
2. 先端に透明のビー玉を接着。
3. 色んなものを万華鏡で覗いてみる。

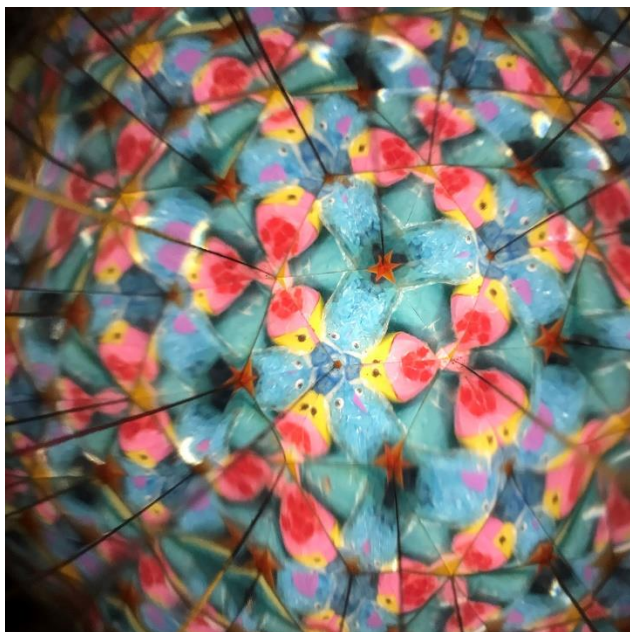


図5 ビー玉万華鏡

【結果】

非常に簡単な作業で風景を素材とした万華鏡を楽しむことが出来る。携帯カメラで画像や動画撮影することによってさらに魅力的な世界を見ることが出来る。

学生作品展示「お店屋さんごっこ」

夏祭りをテーマに縁日での屋台を制作。コロナ禍ということもあり、色々なイベントの中止で現実に経験出来なかった世界をグループに分かれてそれぞれの思いお店を作り出した。

⑤2022年9月10日(土)

模擬授業体験「コラージュ缶バッジ制作体験」

【準備物】

雑誌等の印刷物、カッティングマット、デザインナイフ、缶バッジマシン、

【作業内容】

缶バッジのサイズの型紙を用意。

テーマを各自決めて素材を選ぶ。

缶バッジの素材色(シルバー)も活かし、カットした素材を配置。

プレスし、缶バッジを完成させる。

【結果】

用途が2種類選べる(マグネットかクリップ)ので用途によってテーマが決まる面白い結果となる。

マグネット→冷蔵庫(内で楽しむ、見る人が限定)

クリップ→かばん(外にアピールする、見る人が不特定多数)



図6 缶バッジ

学生作品展示「要素：線」木の枝の構成

学内は自然に恵まれた環境であるため、造形するための素材は季節問わず手に入る。この後説明する竹工作や落ち葉、木の実、枝や粘土、素材だけでなく環境としても池や草の斜面、苔や草が生い茂るグラウンド・・・凧上げや遊び、自然環境を利用した展示など子どもの視点で見渡すと宝の宝庫であろう。子どもの気持ちに帰って枝を拾い集め麻ひもで縛って形にしていく。ただ組み合わせるだけ。組み合わせた枝に石膏ガーゼを思い思いに巻き付け着色していく。枝はみるみる

何かに変身。



図7 木の枝 with ガーゼ

⑥2022年10月15日(土)

模擬授業体験「粘土あそび、陶芸体験」

参加校:和歌山信愛高校

粘土の成型方法は、手びねり、玉造、電動ろくろ、鋳込みなど、表現方法により成型方法を選択する。経験を積むほど技法が足枷になり表現の幅を狭めてしまう結果になることが多い。子どもの粘土遊びとしては、板づくり(タタラ板成形)がダイナミックな表現のための一歩かと考える。

煎餅状のものを多数つくり何かを型にして貼り付けて増殖させても面白い。その形を元に造形しても良いだろう。

【準備物】

粘土(白)、タタラ板、ワイヤー、切り針、色ガラス釉薬(青)、折り紙、ガーゼ

【作業方法】

- 1.粘土を練る(あら練り)
- 2.7mm厚のタタラ板で粘土をスライスする
- 3.模様となる素材を作る(折り紙のカット)
- 4.粘土板の上に模様を配置してガーゼで覆う
- 5.板を使って全体が馴染むようにプレスする
- 6.後日乾燥したものを素焼き(800℃)
- 7.素地の凹凸を活かすために、濃淡が美しい色ガラス釉薬を掛け、本焼き(1230℃)

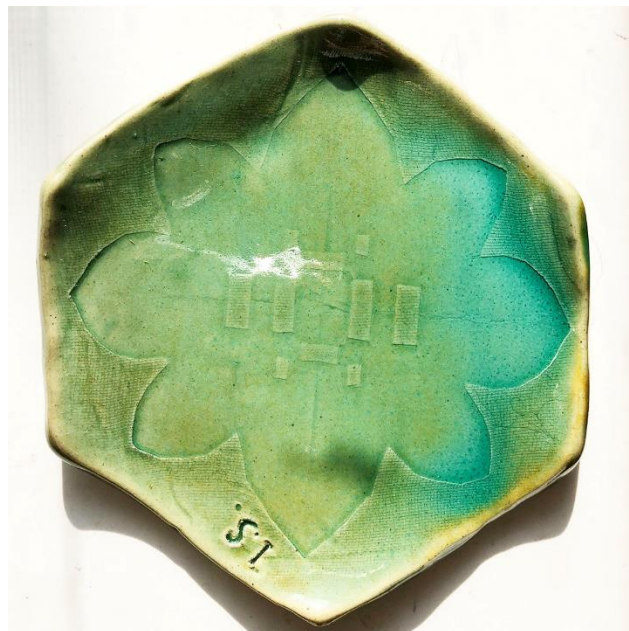


図8 タタラ板成形

学生作品展示「さかな提灯」

校内の竹を伐採、素材の採取を行う。伝統工芸で有名な金魚提灯をアイデアにして、空間を演出する課題としての作品。骨組みは素材となる枝のサイズ等で個々の大きさが異なる。思い通り進まない作業が多いが、和紙を貼りインクで着色し、学生全員の金魚が中空で泳ぎ出すと個人ではなく共同で一つの空間を演出する面白さが見つかるはず。



図9 さかな提灯

【おわりに】

体験授業は、ものを作る楽しさに触れてもらう事が目的であ

り、そこが入り口となり表現する面白さにも繋がればと考えている。見本通りに制作するのではない。その工程の中で自分なりの表現を試せばよい。それを表現として発見できるかどうかは指導者の感性によることが多い。ものつくりの場(無言の対話や他者が生み出す形からの影響)を通してその「何か」を発見してもらいたいと考えている。子どもたちの表現は様々である。豊かな感性を育てる為に様々な経験や体験を積み上げ表現の自由を守れる保育者を育てたい。

【参考文献】

- 片田江綾子.(2010). 家族について教えるということ:家庭科
教員の家族教育体験に関する現象学的研究. 日本家庭科
教育学会誌, 53 (1) 22-31.
- Lorenz, K. (1943). Die angeborenen Formen möglicher
Erfahrung [The innate conditions of the possibility of
experience]. Zeitschrift für Tierpsychologie, 5, 235-409.
- 岡本拓子・花原幹夫・汐見稔幸編著(2020). 『保育内容「表
現」』. ミネルヴァ書房.
- 花篤實・岡田愨吾編著(2009). 『新造形表現(理論・実践編)』.
三晃書房.
- 『美術手帖 2019年2月号みんなの美術教育』. 美術出版社.
- 佐藤修一(1998)『自然にひそむ数学—自然と数学の不思議な
関係 (ブルーバックス)』田中健三著「デザイン基礎論」. 講談
社.